

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0006 名古屋市中区葵 1-27-32 カイフビル 7階

HD ニュース

No.23
2014.11.15

今後の予定／於：事務局会議室

- 11月18日(火)18:00～ マンション大規模修繕研究会
- 11月18日(火)19:00～ 研修会
- 11月20日(木)18:30～ 木造技術研究会
- 12月4日(木)19:00～ 役員会
- 12月16日(火)18:00～ 相談委員会
- 12月16日(火)19:00～ 研修会(終了後忘年会)

建築デザインのゼロ・グラビティを目指して

副理事長 新野修一

今週の火曜日に学生とデザインについて論議した。彼らは大学3年生で、やっと美術館や集合住宅の基本設計を学ぶ段階である。いろいろな考え方を聞いたが一番印象的なのは「デザインは形を格好良くすること」という当たり前でシンプルなものだった。一方、私の学生時代の2年先輩がデザインに関してコメントしているのをインターネットで見つけた。彼は若い頃から建築デザインに並々ならぬ情熱を傾け、大学に籍を置いて、研究・教育・実務を実践してきた。コメントの一部を紹介すると「デザイン活動はデザイン作品に物語性を織り込むことである」「優れたデザイン作品の物語性は、創出された空間やものによって利用者を感動させることができる」等々、40年以上経っても変わらない羨ましい程純粋で一途なデザイン感に接することができた。さて、私のデザイン感は何というかと数学的に解りやすく示せば「デザイン＝ $\iint \cdot \cdot \int f$ (プログラム, 機能, 構造, 環境) $dx_1 \cdot \cdot dx_n$ 」となる。説明を加えれば長くなるので控えるが、逆に言えばこの関数はどうでも説明できるのであり、経験が変数を選択する。

この3様のデザイン感は共存できるのか。学生は建築の技術的深奥と形の関係を理解できていないが、デザインのスタートとして健全なモチベーションと言える。先輩は多分幸せな設計活動を続けてきたのであろうか。私も長らく物語性が重要であると思っていたが、この言葉にいつの頃からか何か恣意的で傲慢さを感じ始めていた。脚本がドラマの進行と共に方向転回されるように、デザインの物語も建築を使い始める時間の経過と共に変わっていくこともあるのだ。物語性が強いと可変性が弱くなる。その一途さにクライアントが悩む。半官半民組織の建築部門のトップで退職した知人に先月会った折に「設計って何も知らない方が仕事出来て進むよね」と言われた。この言葉は設計を統括し、多数の設計事務所の仕事ぶりを長年見てきた至言である。無知か一途か経験か。建築デザインの過程でそのタイミングに合わせて、時に無知に、時に一途に、時に経験に従い、その場で最も相応しい引出を自由に選択出来ればと思う。錦織圭選手について松岡修造氏の言う「ゼロ・グラビティ」のように。そんなの無理かな？

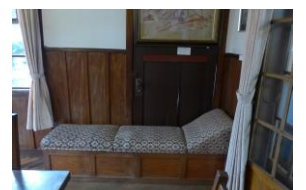
第3回HD研修旅行記 1・西村(伊作)記念館

副理事長 森 登

第3回研修旅行(11月9日～10日)の報告です。

大正4年の建築。座敷・客間中心の家が主流だった当時、南東に居間を東に食堂と、「家族本位」を目指したことが理解できる。居間のファイヤースペースは接客兼用ということ。ターコイズブルーの自らデザインした家具が可愛らしい。

食堂の一部にはカウチソファ(インテリアとしては違和感がある)を置き、自分の居場所を定めたのだろうか?脇のドアを開けて、通り抜ける風と庭の風景をゴロリとなり楽しみ、直接庭に出られるようにしてある。



西欧化を目指しても本音は日本人？ちなみに食堂から4間ほど西（北西の角）に居間と同じ広さの台所がある。普段の食事はここ？実験住宅での暮らしはどうかだったのでしょうか。

窓と外壁のバランスは西欧風で絶妙。彼が描いた絵画を見れば「なるほどね」。陶芸・絵画・家具と多才な建築家です。

著名な建築家に就くことなく、時代の空気感を読み、民家に学び、陶芸・絵画・家具をとおしてデザインの素を見つめていたのでしょうか。



第3回 HD 研修旅行記 2・熊野本宮大社

木造技術研究会 谷川照雄

旅行の目的の一つが、熊野本宮大社への参詣でした。南紀地方へは初めてで、楽しみにしていました。

熊野本宮大社は熊野三山の一つで、熊野速玉大社、熊野那智大社と共にその中心でもあります。昔から「蟻の熊野詣で」、「伊勢へ七度、熊野へ三度、芝の愛宕へ月参り」と詠われる程、たいへんなにぎわいであったようです。さて、本殿に着き、左から順に第四殿まで参拝し終えたところで、居合わせた宮司様にお話をお聞きすると、五つの神様を参拝する順番が決まっているそうです。始めに主祭神である第三殿家津美御子(ケツミミコ)大神で、続いて第二殿速玉(ハヤタマ)大神、第一殿夫須美(フスミ)大神、第四殿天照(アマテラス)大神、第五殿八百万(ヤオヨロズ)の神の順に参拝します。第五殿は向かって右端にひっそりと在ります。そこで改めて第五殿のお参りを済ませました。

熊野本宮大社は、昔は熊野坐神(クマノニイマスカミ)と呼ばれ、熊野川、音無川、岩田川の合流地点にある大斎原(おおゆのはら)という中州にありましたが、明治22年の水害により、多くの社殿が倒壊したため、水害を免れた四社を現在の場所に移築復元

され現在に至っています。熊野本宮大社の神紋は、八咫鳥(ヤタカラス)です。古くから太陽の化身であると伝えられ、その三本足は、天、地、人を顕わします。太陽の下で、天地人は血を分けた兄弟であると言う意味です。

今回南紀地方を旅行して改めて感じたことですが、熊野本宮大社に限らず訪れたどの場所にも、歴史、文化(慣習)が今なお暮らしの中に生き続けており、それに触れられ、よい思い出がまた一つ増えました。

最後に、全国を歩き続けた、民俗学者の宮本常一さんはこう述べています。「私はひろく日本中をあるきまわって、いろいろのことをまなびましたが、それによって、この上もなくこの国土を愛するようになりました。」



委員会・研究会等報告

■木造技術研究会 10/16 18:30~20:30
研修旅行について。「フラット 35 対応 木造住宅 工事仕様書」読み合わせ。

■相談委員会 10/21 18:00~19:00
無料電話相談の相談内容報告、質疑、意見。電話相談当番他。

■技術研修会 10/21 19:00~21:00
「住宅性能評価制度の実務～戸建編」
講師：ビューローベリタス名古屋事務所

■三役会 11/6 18:00~20:00
会員現況と収支状況報告、各委員会活動の現状と今後、正・賛助会員の加入促進について。他